

令和7年度 第1回「くまもとで働こう」推進本部 議事概要

日時：令和7年（2025年）6月6日（金）13時00分～13時40分

場所：知事応接室

1 開会

【進行：商工政策課 中嶋審議員】

商工政策課中嶋でございます。よろしくお願いいたします。それでは、お手元の次第に沿いまして進めさせていただきます。

開会にあたりまして、推進本部長である木村知事からご挨拶を申し上げます。

2 挨拶

【木村知事】

皆さん、お疲れ様です。今年度の第1回「くまもとで働こう」推進本部会議を行わせていただきます。昨年8月にこの本部会議を本県の人材確保、そして育成の課題解決を目指して頑張っていこうということで立ち上げました。昨年度の本部会議では、本県の人手不足の状況とか課題を共有して「県内定着」、そして「人材育成」、「生産性向上」、「働きやすい職場環境づくり」をテーマとして取り組んでいくこととしました。また、各企業や団体等の好事例を共有し横展開を図ってもらっているところでございます。

今日はこの会議の4つのテーマごとに各分野における今年度の取組みの報告をしてください。そして、また部局を越えて連携できる取組みを探って、より効果的なものにしていってください。そして、先日新規高卒者の就職状況が公表されました。県内就職率、私達の県内定着の課題ですが、昨年より1ポイント上昇して全国順位は2個上がったと。ただ、まだまだ全国的に見れば下位でございますので、さらなる取組みが必要な状況であります。高校生の県内定着に向けた取組みの報告もあると聞いておりますので、教育庁、そして各部局が連携して取り組んでいただきたいと思います。

今回のテーマとして、県南・天草両広域本部からも参加していただいております、人材の流出が厳しいと今言われているといいますか、皆さんも感じている、県南・天草地域の取組みを報告してもらおうと思っています。特に、県南ないし球磨地域は、この後また球磨川の復旧復興会議、または水俣芦北の地域振興などもございますし、地域未来創造会議なんかでもやはり天草の人材育成などの話もしております。ぜひ、こうした地域の話をお聞かせいただき、各部局で何ができるか、そこもぜひ考えていきたいと思っています。

私からも1つご紹介したい事例があります。先日、福井で開催されました、日本創生のための将来世代応援知事会議という、知事同盟というサミットであった岡山の事例がとても興味深かったので、働きやすい職場環境づくりの1例としてご紹介したいと思います。では、今日はよろしくお願いいたします。

3 報告

【佐藤商工政策課長】

報告（１）、（２）を説明

- （１）これまでの総括、人手不足の現状について
- （２）令和７年度の主な取組み、好事例の横展開の状況、
県南及び天草地域の取組み、KPIに関する連携体制、
新規高等学校卒業者の県内定着等に向けた取組み

4 意見交換

【商工政策課 中嶋審議員】

次第４「意見交換」に移ります。まず、木村知事から好事例の取組みをご紹介します。

【木村知事】

本当は各部の説明が先なのでしょうが、私が最近気になった、いいなと思った事例を１つ紹介します。皆さんのお手元にあれば開いていただければと思います。岡山県津山市にあります、津山福祉会特養の高寿園、先ほどのリデルライトホームで会長が語ってくれたのとかなり似ているのですが、私は本当に非常に感銘を受けたのでご紹介したいと思います。

１ページめくって、ここは大体定員が１００名ぐらいの中規模の特養やデイなどを抱えているところなのですが、法人理念やケア理念に面白いのがその「居心地のよい笑顔溢れる私らしい暮らしと、人を支える専門職」ということで、職員に対するすごく何というのですか、リスペクトというか職員の環境というのがとても充実しています。

次のページにいただくと、非常にその働き方のダイバーシティとインクルージョンというのを伸ばしていて、すごいのが正社員、準社員、パートという働き方のパターンがいくつかあるにせよ、それが幾らでも決められるというのと、例えば定年後も再雇用が定年なし等、すごく幅広くされています。

次のページにいて、ここの法人は両立支援委員会というのですが、子育て支援をしっかりとしていこうということで、子育てが終わったママさん職員に加えて中学生までの子どもを育てるパートを含む全職員で両立支援委員会というのを立ち上げて、いろんな制度をいわば働き方改革といいますか、やはり女性というか、働きやすい職場づくりということで、この２０年近く前にもう思いっきりシフトして、例えば、下から４ポツ目の妊娠出産、育児、介護、入院した退職者をまた復職したいというときには同条件で再雇用するという良い制度がどんどんできています。それと休暇は皆さん取れるのですよ。だけど、その人のために、子育てのために例えばスクールイベント休暇、ニューパパサポート休暇、何かいいなという仕掛けをたくさん用意されています。

次のページにいて、この働きやすい職場ということで、もちろんこういう介護施設や福祉施設が故の特徴なのですが、働き方が５３通りぐらいあって、自分で

働く時間とか日数を決められて随時変更可という。これは私たち県庁だとなかなか難しいところがあるかもしれませんが、ただ業務量をいろんなハンデを持った人が、週5日、毎日8時間働けなくてもいろいろなパターンを合わせていって組んでいけば、仕事というのはシェアができるものだと思います。やはり53通りの勤務形態、短時間正社員の制度を入れたり、すごく努力をされていると思うのです。職員目線、職員を中心に考えているなど。次のページにいくと、これは県庁でもすぐ取り組める育休中の帰園日という、確か以前も職員によってはやってくれているというか、時々育休中の職員が子どもを連れてこんにちとは遊びに来てくれる。育休中はあんまり自分たちに構わないでくれという職員もいるかもしれませんがけれども、以前私が勤務していたとき、職員が子どもを連れて遊びに来てくれる。1ヶ月に1回は職場訪問をしてもらうというのも子どもの成長を職員や入居者とともに喜び、離れていないことを実感できることで休職中の職員の帰属意識や安心感を高められるというそれもすごくいいなど。また、復職支援についても復職時の研修ですとか正確に言うと復職直前からの研修を含めて、厚くサポートしているのも何か参考になるなどと思います。

次のページにいくと、ここは院内保育園ではないのですけれども、保育園はないけれども地域の方がここに書かれています、図書館を設置したり、地域の子育て団体と連携したイベントをその職場の中でやることによって、職員がそこに参加して子育てとの両立を図っていく。究極、近所の学校の先生が夏休みの課題と一緒にやりましょうみたいなイベントをこの福祉施設の中でやって、そこに入居者のおじいちゃんやおばあちゃんもいて、最後になったらその子たちと一緒に頑張って手伝いを始めて、場合によっては子どもたちがこのアルバイトをここで始めるみたいなですね。何か非常に面白い好循環ができていますなどと思いました。ともかく、最後にこの風土づくりというこの理念も非常に明確でして、たった1人の課題を、法人の制度、いわゆるその組織として受けとめていくっていうのを、子育てがしやすい職場はすべての職員が働きやすいという、非常にミッションを明確にした、いい職場だったなということで、日本創生のための将来世代応援知事会議の知事同盟サミットの最優秀賞になられたので、ぜひご参考にさせていただきたいと思います。以上、私からの好事例の発表でした。この施設からご了承をいただいていますので、皆さん、ご参考にしてください。

【商工政策課 中嶋審議員】

続きまして、いくつかの部局からご発言をいただけるということになっております。まず、好事例の横展開の状況におきまして、社会福祉法人リデルライトホーム様の紹介動画をご覧いただきましたが、展開状況の補足などについて、健康福祉部長からご説明をお願いいたします。

【下山健康福祉部長】

健康福祉部でございます。お時間をいただきありがとうございます。今動画を見ていただきましたけれども、介護の仕事の特設サイトを作っております「ウェ

ルカム！くまもと介護の扉」というサイトでございます。もしお時間ありましたらまた後程見てください。横展開を図るためにこういった好事例を、サイトやパンフレットで、展開をしているところであります。

先ほど、石本さんという前日本介護福祉士会会長もされていた方で、若手のリーダーの方なのですが、お話にありましたように、やはり質を保ったまま、そして職員の処遇も確保した形で実現できているというのが素晴らしいのですが、お話にありましたように、ダイバーシティマネジメントとしてアクティブシニアの方々や外国人材を活用されています。ただ、どこの施設でもできるというわけでもないというような課題も一方で思っておりまして、そのためには日頃から地域に開かれて、例えば学生でありますとか、シニアの方々との連携が必要となってきますし、資格に応じた業務の細分化という視点だけでなく、人材に合わせて業務を細分化していく等、色々な手法を考えながら、他の小規模な施設でも取り組んでいけるような手法を我々も考えながら横展開を図っていきたいと思っております。関係部局の皆様とも情報共有をさせていただきたいと思えます。ありがとうございます。

【商工政策課 中嶋審議員】

続きまして、取組みを進める上で、部局間や分野間での連携等について意見交換をさせていただければと思います。まずは、農林水産部で推進されております、農業・林業・水産業が連携した取組みについて、農林水産部政策審議監からご説明をお願いいたします。

【磯谷農林水産部政策審議監】

農林水産部です。21ページをお願いします。今回部でまとめました担い手育成に関する基本的な取組みの方針、くまもと農林畜水産アカデミー構想について説明をします。ターゲット、手段、ゴールを整理していますが、農林水の担い手の確保・育成はすでに部内各局でそれぞれ主体的に進めておりまして、新規拡充含め各事業を実施しているところです。右側にありますように、これらの施策は基本的には年齢層や経験値、或いは経営力の高低問わず支援対象としています。一方で、当構想では、戦略的に若手就業者のネットワーク化、技術力経営力の向上を意識して、メインターゲットを年齢層経験値が若干低め、経営力もまだまだ伸びしろがある層に絞って取り組んでいければと考えています。矢印で示しています各局主体の専門性等を活かした学びの場の提供、これは引き続きやっていきながら、これに加えて、人と人が繋がっていくような、農林水が繋がる学びの場を創出していく方針です。次世代のトップレベルの経営者の育成というゴールイメージ、これを部全体で共有し、一体感を大事にしながら進めていければと考えております。

22ページをお願いします。構想の整理をしておりますけれども、次世代のトップレベルの経営者の育成を目指して、手段としては、若手就業者を対象に学びの機会を提供し、農林水産のネットワーク化を図るためのきっかけ作りを展開していこうと考えています。なお、次世代トップレベルの経営者は、下の方の※2のとおり整理をしたところです。令和7年度は農林水の若手従事者の横の繋がりをつくる学び

の機会を設けるということで、例えば、これまで農業者を対象としていたくまもと農業経営塾について、林業、水産業の方々にも聴講できるよう準備を進めて参ります。また、令和8年度は同様の取組みを各地域振興局で、すでに連携しているところもあるという情報もありますので、それを展開していきたいと思っております。9年度以降は実装していく活動、それを県が下支えとして支援していく形になればと考えています。すでに県内で活躍の6経営者の写真をイメージで載せておりますけれども、このような地域の活力を生むような人材をもっと増やしていければと考えております。以上です。

【商工政策課 中嶋審議員】

農林水産部の中でも農業林業水産業が連携するというポイントということで、ご紹介いただきましてありがとうございます。

続きまして、学校ではキャリアサポーターが活躍されていますが、各部局や各分野との連携についてでも構いませんし、教育委員会、或いは学校現場からのご意見でも構いません。教育長からお話をいただけますか。

【越猪教育長】

教育委員会でございます。資料は19ページ、20ページ、複数に跨っておりますので私の説明でお聞きいただければと思います。

先ほどのご説明でもありましたように、地域や産業界と連携したキャリア教育を推進しております。特に、高校生キャリアサポート事業では、就職希望者が多い県立学校に24人のキャリアサポーターを配置し、県内企業の紹介や県内で働く魅力などを紹介しております。今年からは、キャリアサポーターから企業に対して、生徒及び保護者の就職に関するニーズを発信し、選ばれる企業になるための情報提供を行い、県内定着を図っているところでございます。また現在、県立高校に対して商工労働部の若手職員の皆さんによる出前講座、産業講話などに取り組んでいただいているところでございます。また、農林水産部でも出前講座や中学生を対象とした農業体験バスツアーを実施されているところでございます。地元企業や県内産業を知る機会として学校、現場からも好評でございまして、高校卒業後すぐの就職者だけではなく、進学等で一度県外に出る学生の将来のUターンを含めた、県内定着の大きな後押しになると考えております。知事部局と連携しながらこういった取組みを県立高校全50校、そして私立高校まで広げることができれば、非常に価値があるものと考えております。引き続き、商工労働部を中心にとともに人材を育成していければと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。以上です。

【商工政策課 中嶋審議員】

その他に、知事からご紹介がありました事例も含めまして、他に意見交換をさせていただければと思いますが何かございますか。土木部長、お願いいたします。

【菰田土木部長】

土木部でございます。資料の補足的な話で恐縮ですが、20ページをお願いできればと思います。建設業界においても担い手確保というのが喫緊の課題というところで、人材確保の取組みがやはり重要だという認識を持っているところです。20ページの一番上の丸ですけども、「建設産業の力」発信事業というのがございますが、そのポツの3つ目に、高校生向けの建設業関係団体説明会というものをしています。これは高校1、2年生をターゲットに、建設産業についてご理解いただくための説明会ということで、早い段階から知っていただくことを目的としているところです。その次の丸の「建設産業若手人材確保緊急対策事業」では、先ほど事務局からご説明がありましたけれども、高校3年生をターゲットに、より具体的に県内の建設企業について知っていただくための説明会ということで、これまでやっていたのですけども、今年度からそれを拡大しまして、高校2年生や一般の求職者も参加対象に拡大して取り組もうと考えているところです。例年より200名ほど多い800名が今年6月の説明会では参加していただくということで見込んでいます。

このようにいろんな説明会を開催することで、建設業界について知っていただいて、県内の建設企業の魅力をPRしたりしていきたいと考えているところです。以上になります。

【商工政策課 中嶋審議員】

他にございますか。

【木村知事】

せっかくの機会なので、教育長に質問です。先日、一緒に国へ要望に行かせていただいた際、文科省に特に県立高校の魅力化の中でも専門高校などの技術や農業や福祉やそういったところの支援ができないかということを申し上げたところですが、私の思いは今もずっと変わってなくて、教育長として専門高校の魅力化というのをどのようにしていったらいいか、または工業高校や農業高校に入ってくる子どもをどうやって増やすか、農林部はそういう形で、今、中学生向けにかなり何かやろうとされていますよね。そういうのがどうなのか。表向きは高校の名前が変わって、例えば翔陽高校とか、阿蘇中央高校とか、学校名は農業高校とか、工業高校などになっていなくても中身がとても魅力的で学生も来ていたりするのでしょうか。そういうところだから、どういう努力をしているのか、どういう魅力があるのか、いまいち私も掴みきれていないのですが、教育長から見られて専門高校についてのご意見をいただければと思います。

【越猪教育長】

熊本県の高校の中で専門高校の割合というのは全国的に比べると非常に高い割合でございます。農業高校、工業高校、商業高校含めてでございますが、高校生がその専門高校で学ぶという意味とか意義については、もちろんその中学生のときに学校でそれぞれの専門高校に対する知識、魅力、そういうものを発信していただい

ておりますし、また、教育委員会の方でも県内50校の県立高校の詳細なその魅力、パンフレットというのをここ2、3年で作っておりまして、それを中学生の一人一人に届けるような、そういう仕組みもでき上がっております。私の考えで申しますと、専門高校、特に日本の専門高校での学びというのは、世界的に見ても非常に優れた学びをしているという認識でございます。3年間でそれぞれの商業農業あたりでも学んでいった子どもたちが専門性をもう一歩高められるような、例えば人吉球磨にございます球磨工業高校の伝統建築、あそこのプラス2年間といいますか、そういった学びができるような、そういう仕組みがあればいいなと思っています。

あと1つは、そういう専門的な学びをした子どもたちがより専門的な仕事で県内に就職できるような、そういう魅力的な企業さんの情報発信というのをもう少ししていただけるとよりよい環境ができるのではないかと考えています。

もう1点でございます。専門高校の素晴らしさといいますのは、課題研究というのをやっています。この課題研究というのかなり質の高いものをやっております。この間、熊本農業高校さんの豚の研究、養豚の件がございましたけど、そういうものが例でございます。他の学校でもいろいろやっております。以上でございます。

【木村知事】

ありがとうございます。

【商工政策課 中嶋審議員】

時間も参りましたので、意見交換はこれで終了させていただきたいと思います。

資料の23ページでございます。今後の進め方について記載をしております。10月上旬から中旬にかけて第2回推進本部会議を開催する予定でございます。第2回では令和8年度、先になりますけれども、予算の要求の方向性について議論したいと考えております。よろしくお願いいたします。

それでは最後に、知事、両副知事からご意見をいただきたいと思います。まず、亀崎副知事からお願いいたします。

【亀崎副知事】

私から、まず前半では人手不足の現状ということで、やはりこれを見ると建設、技術、医療、或いは介護、接客、輸送など、そこに課題があるとわかりました。そういった中で今回の今年度、令和7年度の重点的な取組みということで4つの方向性、テーマということで書いてありました。お話を聞く中で、また新規高等学校の卒業者の就職割合が低いという現状があるということで、おそらくこれには地域的な要因や課題があるのではないかとということで、よく県南に行きますと、首長さんたちから「なかなか高校生が残ってくれない」という話を聞きます。今、越猪教育長からもありましたが、優秀な生徒さんはいるけどそこを受け入れる企業さんとか、そういったことも課題なのだろうということで人口減少、人手不足というのは、ある意味地域の構造的な課題も把握しながら進めることが大事なのだろうと思っています。好事例の横展開、ここにありますように働きやすい職場環境や生産性向

上、人材育成、これはもう共通のことだと思います。さらにその横展開に加えて、そういうところをよくマッチングできるようなことができないかと私なりにも思っているところで、ぜひ今年度弾込めをかなりしてありますので、皆さんと共有しながら、さらによりよいものに仕上げていきたいと思っておりますので、皆さん頑張ってください。以上です。

【竹内副知事】

まさに亀崎副知事からもありましたが、本日も好事例の横展開の状況等について共有をしていただきました。やはり事業者さんも含めてそれを取り入れる風土、県庁も県庁でできることをどんどんやればよいと思います。また、9月に向けて幹事会等あるということですので、今一度、それぞれの部局で、他の部局でやっているようなこと、或いは先ほど知事からご紹介いただいたようなところも踏まえて、さらなる取組みを考えていただければと思います。

【木村知事】

ありがとうございました。今日、推進本部で今後の施策に生かせる取組み、各部局の連携をぜひ進めていただきたいと思っております。先ほど越猪教育長からお話いただいたいろいろな仕事の可能性といいますか、子どもたちにいろんな機会を私たちは与えていくのが使命だと思っています。子どもの仕事に対する興味関心を高めて、時にいろんな気づきを与えてくれて、そして将来の自分の進路を描けるようなキャリア教育にもしっかりと取組んでいきたいという思いを私も新たにいたしました。教育長からお話があった、企業や業界がその魅力を発信して、学校や保護者、また場合によっては進路指導の先生などにしっかりと企業のイメージ、仕事のイメージを伝えていくような取組み、これは商工労働部が旗振りで各部局それぞれでそれぞれの業界ごとにやってくれていますけれども、頑張ってください。

そして、新規高卒者を県内就職に向けて、各部局が改めて自分ごとと捉えて教育庁、教育委員会と連携して、いろんな取組みをしていってください。繰り返しになりますが、各分野の人手不足を解消するには、県庁だけが旗を振っても絶対だめです。県庁が動きながら、各企業や団体、業界に新しい働き方改革を含めた魅力ある企業を作っていく、それを若い人たちに理解していただくことに尽きますので、ぜひ皆さんもさらに情報収集をして、相互に共有し合ってください。

ただ、今日は県南・天草地域からお越しいただいたり、Webでも参加いただいたのに、ご発言する機会まで十分に確保できなくて申し訳なかったのですが、取組みは十分理解できました。ただ、なかなか厳しい状況にもあろうかと思っていますので、それぞれの地域、先ほども申し上げましたが、水俣・芦北地域振興計画や球磨川流域復興のいろんなプラン、そういうのが特出しで私たちが計画を作りますし、また、地域未来創造会議の中で天草でもぜひ次の展開をとということを去年議論していましたので、ぜひ地元の市町村等と連携してさらに深めていっていただき、その県南・天草地域の課題は追って、それぞれの局、本部でまたお話を聞きたいと思っ

ています。効果が出るまで、時間がかかる取組みが多いと思いますが、1つ1つ課題に向き合って、そして、この人材確保育成、全庁一丸となって取り組んでいきましょう。よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

5 閉会

【商工政策課 中嶋審議員】

ありがとうございました。それでは、これをもちまして第1回「くまもとで働こう」推進本部会議を終了いたします。

ありがとうございました。